視察Report

『うだつの町並み』をはじめとした

徳島視察報告

安間　和奏

昨年八月、地域資源を活かしたまちづくりの先進事例を学ぶため、徳島県西部を中心に視察を行った。

うだつの町並みの保存と活用

美馬市脇町南町にある「うだつの町並み（美馬市脇町南町重要伝統的建造物群保存地区）」は、今回の視察の主目的地で日本遺産「藍のふるさと阿波」の構成文化財としても注目されている。

脇町は江戸時代より阿波藍の集散地として繁栄した商家町である。通りには市指定文化財の吉田家住宅をはじめとした江戸中期から昭和初期にかけて商家や町家などとして建てられた歴史的建造物が八十五棟現存している。最大の特徴は、建物両端に設けられた「うだつ」と呼ばれる本瓦葺き・漆喰塗りの袖壁であり、防火性と格式を兼ね備えた意匠である。この「うだつ」が並ぶ光景から、「うだつの町並み」という通称で親しまれている。現在でも全体の約七割の建物に住民が居住しており、生活の営みと伝統的景観が共存している点は大きな特徴である。美馬市は地域の魅力を発信するプロモーション活動や古民家を地産地消の飲食店や宿泊施設として利活用するなど様々な取り組みを行っており、歴史的建造物の保存と地域経済の活性化を両立する取り組みとして参考になる事例であった。

うだつの町並み

うだつ

地区内にある美馬市観光交流センターでは、実際に藍染体験を行い、阿波藍の深みのある色合いと染料づくりの奥深さを学んだ。また、古民家をリノベーションした「ペイサージュモリグチ」に宿泊し、町の空気を直に感じることができた。

地域文化を支え続けるオデオン座

うだつの町並みの近隣に位置し、昭和初期に建てられた「脇町劇場オデオン座」も見学した。一時取り壊しも検討されていたが、現在は芝居公演や映画上映の他、市民の芸能文化の発表の場として機能しており、地域文化を支える拠点として注目されている。歴史ある施設を活かし、地域に新たな価値を生み出す動きは、今後の文化施設活用の一例として学ぶべき点が多く含まれていた。

その他徳島視察

今回の視察では、美馬市に加えて、徳島県内の他地域にも足を運んだ。藍住町の「藍の館」では、阿波藍の由来や発展の経緯とともに、現在の技術継承について理解を深めたほか、三好市では、築百五十年の古民家をリノベーションした地域交流拠点施設「真鍋屋（ＭＩＮＤＥ）」を訪問した。施設内にはコワーキングスペースやカフェが整備されており、地域の人々が自然に集い、交流する場としての魅力が感じられた。さらに、「落合集落」にも訪れ、急傾斜地に広がる茅葺き民家の景観や、山村の暮らしの雰囲気を感じることができた。

視察を通じた気づき

本視察を通じて、地域の文化を活かしたまちづくり、伝統と現代の調和を図る地域資源の活用策など、今後の施策を考える上で多くの示唆を得ることができた。特に、歴史的な建物を守りながら新たな利活用を進めている各地域の丁寧な取り組みは、文化の継承と地域の持続的な発展を両立させる好例であり、今後のまちづくり業務に活かしていきたい。

落合集落